

09号の制作に関わったクリエイターと、enocoスタッフによるカフェトーク。
男3人、真冬の江之子島観光を振り返りつつ、パンケーキを囲みます。

ゲスト

赤井佑輔さん(右) グラフィックデザイナー
飯川雄大さん(中) 美術家
陸奥賢さん(左) 観光家/コモンズ・デザイナー/社会実践者



赤井佑輔 デザイナー

1988年生まれ奈良県出身。2011年、京都造形芸術大学情報デザイン学科卒業。在学中よりデザイン用語を元にした楽曲を歌うクリエイティブアイドルユニット「情デKIDS」を結成、ボーカル・作詞・作曲などをおこなう。卒業後もなくgrafへ入社し、グラフィックデザイナーとして活動。2014年に独立しparagramという屋号で大阪を拠点に活動している。2016年より京都造形芸術大学非常勤講師。
※陸奥さん、飯川さんのプロフィールは特集ページ(p.2)参照

ninOval cafe enoco地下1階 営業時間:11:00-18:30(月曜日定休)

新しい春が来ましたね!初めてのの方はまずオススメ!「夢見るパンケーキ」。

スフレよりもふわふわにしっとり焼き上げた生地とメイプルシロップ、ほのかに甘くやわらかい舌ざわりの自家製のホイップバターの香りが口の中に広がります。一口目は何もかけずそのまま、二口目にはホイップバターと、最後はメイプルシロップをかけてなどなど、色々な楽しみ方ができてパンケーキそのものを味わっていただけます。



enokojima creates osaka
enoco

大阪府立江之子島文化芸術創造センター[enoco]
Enokojima Art, Culture and Creative Center,
Osaka Prefecture

アートやデザインの創造力で、都市を元気にすることを目指し2012年4月にオープン。展示室や多目的室のレンタル事業を行うほか、企画展や公演、セミナー・ワークショップなどを開催し、クリエイティブな人や情報が行き交うプラットフォームとなることを目指しています。

〒550-0006 大阪市西区江之子島2丁目1番34号

開館時間:10:00~21:00(ただし展示室は11:00~19:00・日曜日は11:00~16:00)

月曜・年末年始休館

電話 06-6441-8050|FAX:06-6441-8151

メール art@enokojima-art.jp

www.enokojima-art.jp

enocoニュースレター 09

2016年4月発行

「enocoニュースレター」は、enocoが年4回発行する情報誌。enocoで起こっていることや、enocoにかかわる人々が日々考えていることをお伝えしていきます。

発行|大阪府立江之子島文化芸術創造センター |編集|峯恵子(enoco 企画部門)

表紙・特集ページデザイン|赤井佑輔(paragram)

撮影|飯川雄大(表紙、p.2-p.5)

イラスト(エノケン、似顔絵)|タダユキヒロ

アートディレクション|後藤哲也(000 Projects) |デザイン|小池一馬(000 Projects)



[アクセス]
大阪市営地下鉄千日前線・中央線「阿波座駅」下車、
8番出口から西へ約150m。徒歩約3分。

特集: 今、ふたたびの江之子島“わがまち”観光



09号の表紙 デザイン: 赤井佑輔

江之子島文化芸術創造センター enocoがお送りする「enoco ニュースレター」。表紙と巻頭は、毎月異なる関西のクリエイターたちが担当します。09号では「まちの魅力をそれぞれの視点で見つめる」というテーマのもと、観光家・陸奥賢さん、美術家・飯川雄大さんをゲストに迎え、江之子島を改めて「観光」してみました。今回はそんな内容にあわせて、江之子島を中心とする大阪の地図があしらわれたデザインとなっています。

www.enokojima-art.jp/

今、ふたたびの江之子島“わがまち”観光

再開発で建設が始まったマンションが完成し、この春から続々と新たな住民のみなさんの入居が始まった江之子島。「まち」としての新しいフェーズを迎えようとしています。

enoco でも、この機会に改めて江之子島のポテンシャルを見つめ直してみようということで、特集ページのゲストに観光家・陸奥賢さんと美術家・飯川雄大さんをお迎えし、「自分が住んでいる地域の魅力を自分で見つける」、「まちを楽しむ」ということについて考えます。



語り手

陸奥 賢（むつ さとし）

観光家/コモンズ・デザイナー / 社会実践者。1978年大阪生まれ。2007年に堺を舞台にしたコミュニティ・ツーリズム企画で地域活性化ビジネスプラン「SAKAI賞」を受賞。2008年10月に大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそび」のプロデューサーに就任。大阪市内だけで300以上のまち歩きコースを有する「日本最大のまち歩きプロジェクト」となり、『大阪あそびまち歩きマップ集』は約2万部を売るロングセラーに。2012年9月にはコミュニティ・ツーリズム事業としては日本初の「観光庁長官表彰」を受賞。2013年1月に大阪あそびプロデューサーを辞任し、現在は観光、メディア、まちづくりに関するプロデューサーとして活動中。『大阪七瀬巡り復活プロジェクト』『まわしよみ新聞』『直観読みブックマーカー』『当事者研究スゴロク』などを手がける。應徳院寺町倶楽部専門委員。著書に『まわしよみ新聞のすゝめ』。

写真

飯川雄大（いいかわ たけひろ）

1981年兵庫県生まれ神戸市在住。成安造形大学 情報デザイン学科ビデオクラス卒業。映像、写真、イラストレーションなど様々な分野で柔軟に活動。主な展覧会に、「ハイライトシーン・数センチのポジショニング」(横浜・黄金町Site-Aギャラリー・2015)、「HIGHLIGHTS SCENE」(ベルリン・マルマプロジェクト・2014)「遭遇するとき-Happening Upon-」(滋賀・滋賀県立近代美術館・2013)など。2015年より始まった神戸市のアート・デザインセンターKAVC×CAP×KIITOの3館連携企画「Marching KOBE」の公式キャラクター「猫の小林さん」を制作。ハジメテン、ばうみみ、COUMAなど、アーティスト・コレクティブの活動も精力的に行う。2016年5月13日〜6月19日ホテルアンテルーム京都にて個展「ひとりとはみんなのために」を開催予定。
<http://www.takehiroiikawa.com/>

想像力が まちを楽しくする

enoco：本日は、enoco を飛び出して、陸奥さん、飯川さんとともに江之子島観光に出かける訳ですが、まず江之子島という場所について。悲しいことに大阪の人からは本当に「何もない」って言われ続けて。阿波座に何があるかなんて全然興味ない、みたいな…。

陸奥：全然そんなことないですよ。僕は大阪の色んなところを案内してますけど、江之子島界隈はかなり人気のコースなんです。江之子島の対岸の川口が外国人居留地だったので、近代文明がパーッと入ってきて、一度は文化の大中心になったんです。ところが残念なことに大阪港は遠浅やったんですよ。江戸時代の諸国の物産を集めるっていうのは、まあ船が小さくてもいいんだけど、外洋を渡ってくるみたいな船は、船底がでかいから砂に埋まってしまって来られへん。それで大

阪港はあったという間にボシャってしまった。それを受けて大発展したのが天然の良港・神戸港です。その代わりにこちらには、商人じゃなくて宣教師や医者、学校の先生といった人々が来るということになった。それで教会を作る、病院を作る、学校や孤児院を作るっていう文化や社会福祉に関わることを始めた。なので大阪発祥の「日本初」みたいなものが江之子島周辺には多いんです。

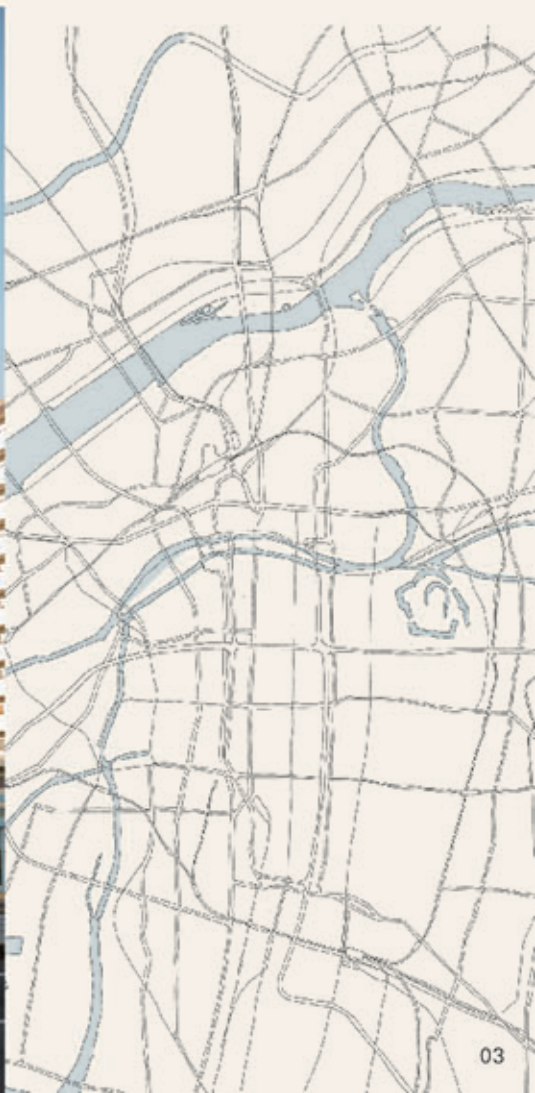
enoco：確かに、江之子島って、よくよく見てみると記念碑とか石碑みたいなものがすごく多いんですね。当時の建物自体は今となってはそんなに残ってないんですが…

陸奥：僕は逆に、建物とかそういうものが実際には残ってないからこそ、大阪のまちが面白いんだと思うんです。残ってるものって、見たら終わりなんでそれ以上の広がりがなければ、「かつてありました」とか「こんなやつたらしいです」とかっていうのは、その片鱗だけでも匂わせると、みんなが勝手に想像してくれるっていうのが面白い。残っているもの、目に見えるものだけで考えてしまうと、

京都や奈良、もしくは神戸にはかなわない。でも「昔は大阪府庁舎だったところが今はこういうアートセンター(enoco)になってます」っていうのとか、「川の集合地点が阿波座ジャンクションになってるわ」とか、「ざこば(魚などを中心とした市場)が今は公園やん」というふうに見えないものを見る、変わってしまったものを見る、かつてあった時間軸でまちを捉えるっていうのはとても楽しい。ほくはそれを「想像観光」と呼んでいます。

enoco：確かに、それぞれがストーリーを考え出すことで、まちの見え方の幅がその分広がりますね。

陸奥：興味を持って調べたり聞いたりするなかで想像力を膨らませていくと、まちがどんどんおもしろく見えてくるんです。加えて、大阪のまちはギャップがあるのも魅力的。かつては遊郭やったところがパチンコ屋、昔の処刑場が今はホテル、とか、そういうところが大阪には結構ありますが、それがいちいち深いというか、いろいろと考えさせられます。



自分のまちを 「観光」する

enoco: 陸奥さんが大阪の各地のリサーチをもとに作ったまち歩きのコースというのが実は300近くあると伺いました。その中でおすすめのコースというのはあるのでしょうか?

陸奥: おすすめのコース、よく聞かれるんですが、「わがまちを歩く」というのが一番面白いと僕は思うんです。自分が生まれたまち、自分が育ったまち、自分が働いていたまち、自分が住んでいたまち。そんなの歩いて面白いのかな?と思うんですが、これがやってみると、とんでもなく面白いんです。なぜか?それは「わがまち」だから。要するに「30年間、毎日、歩いていた通勤の道路の、ちょっとした脇のお地蔵さんにそんな伝説が!」というような発見があったりするということです。「30年間、そこに住んでいた」という重みがないと、この衝撃はわかりません。ツアーに参加して泣きだす人も出てきます。それぐらい、重い。

enoco: 自分のまちだからこそ、身をもってわかるということですね。

陸奥: 僕が考える「わがまち」の観光、コミュニティ・ツーリズムの神髄というのは、要するに「わがまちを楽しもう」という思想運動なので、そうやって歩けば、必ず、「わがまちのイメージ」、つまり違う角度から光を当てることで「わがまち観」というのが変わります。わがまちを歩く。わがまちを楽しむ...ということから、いわゆる郷土愛というものが生まれる。郷土愛が育まれることがコミュニティ・ツーリズムをやるひとつの意義ではないかなと思いますね。

enoco: まちを知ること、まちが面白くなる...よく調べ、想像力を働かせるということは、これからの江之子島やenocoのあり方を考えていく上でも、大きなヒントとなってくる予感がします。



知られざる 江之子島 エピソード 1

「豪州翁」

江之子島生まれの大阪の偉人として、まず挙げたいのが兼松房次郎さん。日本で初めて豪州、つまりオーストラリアとの貿易を始めたということで、別名「豪州翁」と呼ばれています。オーストラリアには豪州翁の銅像があるそう。神戸の築港、新聞地を作ったのもこの人。さらに大阪毎日新聞の創始者でもある。少し掘り下げるだけで、江之子島にまつわるいろいろなエピソードが出てくる。



知られざる 江之子島 エピソード 2

「活字プロレス」

かつて「夕刊流星号」を出していた新大阪新聞社(*1)があった。寄稿者には三島由紀夫、坂口安吾、江戸川乱歩などの錚々たるメンバーが名を連ねていた。のちに夕刊が売れなくなり、プロレス雑誌「週刊ファイト」を発刊するが、これが大ヒット。ファンが試合を観戦するだけでなく、レスラーの攻撃的なコメントを活字で読んで盛り上がるというカルチャー、「活字プロレス」の先駆けとなった。残念ながら阪神大震災で被害を受け廃業してしまうが、新聞社があった木津川沿いの一角は、知る人ぞ知るプロレス文化の聖地とも言われているらしい。

知られざる 江之子島 エピソード 3

「竹翁」

もう一人、江之子島ゆかりの人として忘れてはいけないのが江之子島東之町(※現在では存在しない地名)で日本初の写真研究を始めた上田竹翁さん。船場で湖池の別荘として生まれたものすごい天才で、幕末にアコーディオンの解説書を作ってそれが大ヒットしたり、釣りの本や小鳥の飼いかた、すぐろくの定石についての本も出していたりなど、「なにわのダ・ヴィンチ」と呼んでも過言はない。なんと日本で初めての和英辞書を作ったのもこの人だということで、ここでもまたこの地域の国際性が垣間見える。



江之子島まちあるきルート

2016年2月17日(水)

15:00-16:00

参加者:陸奥、飯川、赤井、峯、高坂(enoco)

知られざる 江之子島 エピソード 4

「川口教会」(*2)

木津川を挟んでenocoの対岸、川口地区は、かつて外国人居留地として栄え、関西圏におけるキリスト教伝来の地となり、早くから西洋文化に親しんだ地域だった。エリアの中でもひととき目立つ川口教会をはじめ、今でも洋風の建築がいくつか残っているのはそのため。日本で最初の喫茶店がオープンしたのはこのエリアであるという説もある。教育活動も盛んで、エリアを発祥とする関西の私学も多い。「死ぬのは川口教会の墓の上で」と決め、89歳で亡くなるまで祖国に戻らず活動を全うしたフランス人宣教師、ピリヨン神父の教え子には、のちに首相になる政治家たちや、大阪を代表する企業家たちが名を連ねる。





これからのイベント情報

各イベントの詳細・申し込み方法はホームページをご覧ください。

おかげさまで1周年!!

えのこdeマルシェ 古本&園芸特集



春・夏・秋・冬と季節ごとに開催している「えのこdeマルシェ」も、おかげさまで2年目となりました。今年も年に4回開催しますので、お楽しみに。

春のマルシェは、enocoの地下にお店を構えるアート・デザイン・サブカルチャー本を取り扱う古本屋ON THE BOOKSとのコラボ企画。テーマは「古本と園芸」です。

ON THE BOOKS米田店長セレクトの古本店にご協力をいただき、絵本やアートブック、店長達による特選雑本(漫画やサブカル、文学、乙女本など)が並びます。また、園芸を始めるには絶好の季節ということで、種・苗や園芸グッズのお店が出店予定&園芸教室も企画中です。さらに、いつも大盛況な手作り雑貨やごはん、珈琲のお店なども出店を予定しています。春のぽかぽか陽気に、えのこdeマルシェへ遊びに来てください。

ー

▼開催日時

2016年5月14日(土) 11:00-17:00

[会場]江之子島文化芸術創造センター 駐車場

入場無料/小雨決行

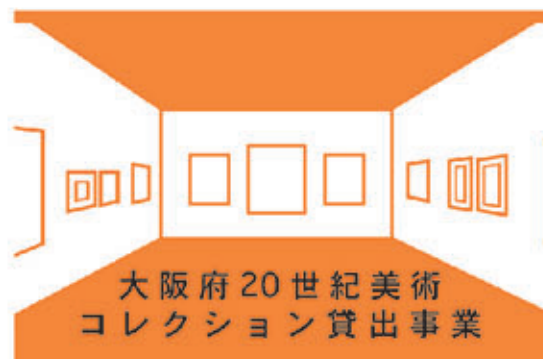
▼出店店舗(予定)

古本:ON THE BOOKS、ANDS、Berlin Books、古本さくら屋、九龍堂、居留守文庫、本は人生のおやつです!!、駒鳥文庫、古書ダンデライオン

その他、雑貨店、飲食店、多数出店予定

大阪府が所蔵する美術作品を展示しませんか?

大阪府20世紀美術コレクション 貸出事業



大阪府では、絵画をはじめ版画、写真、彫刻、陶器、書など、およそ7,900点に及ぶ美術作品を所蔵しています。これらの作品は現在、enocoの企画展、所蔵品展で公開しているほか、これまでに府庁舎をはじめ、大阪府内の病院、大学、大阪モノレールの駅、ビルのエントランス、ホテル、研修所など、多くの公共空間で展示されてきました。

そしてこのたび、府民のみなさまのより身近な空間で、より多くの作品を展示・紹介することを目指し、貸出希望者を募集します。

まとまった作品による企画展から、1点のみの展示まで、美術作品の展示に関心のある方は、ぜひ一度お問合せください。

ー

[貸し出し期間]

短期(1日)から1年まで。

※長期間展示いただくものは、1年以降、毎年更新で展示していただくことになります。 ※作品の材質や形状・状態によって、展示期間に制限がかかることがあります。

[展示費用]

貸し出しに料金はかかりませんが、作品展示に際しては、貸出、返却時の梱包作業費・運送費、展示に要する費用、美術品に関する保険料等がかかります。

[お問い合わせ先]

■大阪府立江之子島文化芸術創造センター

■大阪府府民文化都市魅力創造局文化・スポーツ課 文化創造グループ(電話 06-6210-9306 | FAX 06-6210-9316)

水辺のコミュニティ活性化 木津川遊歩空間が完成!



大阪市内を流れる木津川沿いでは、災害時に備えて耐震性の高い護岸整備が大阪府により進められています。整備の準備段階から関わってきたenocoプラットフォーム部門では、この整備事業を単なるインフラ整備で終わらせず、コミュニティの活性化に繋げるための活動に取り組んでいます。

地域の方々に、より親しみや愛着を感じていただける場所づくりを目指して、地域の方々の想いや意見を取り入れた空間を作るべく、デザインコンペで広くアイデアを募集。審査の結果、20代の女性建築家、岩瀬諒子さんのプラン「だんだんばたけでハマベをつくる一立売堀のマーケットプレイス」が採用されました。

川とまちが溶け合う場所として水辺の空間が想定されたユニークなプランのもと整備が進み、この度2016年3月より、西区木津川の大渉橋から松島橋までの遊歩道部分の供用がスタート。段差の組み合わせで設計された遊歩道は、花を植えたり、ベンチとして腰かけたりと、人それぞれ自由な使いかた、楽しみかたが可能となっています。目の前に川面が広がり、水鳥もたくさんやってくるとも気持ちのいい空間です。今後、2016年度内を目標に広場部分の整備完了を目指しています。

現在、地域の方々を中心とした「木津川遊歩空間を楽しむ会(仮称)」が発足し、enocoもそのメンバーとして加わっています。今後、この空間をどんどん楽しく使いこなすための活動を進めていきますので、興味を持っていただけた方は、ぜひご参加をよろしくお願いします!

(詳しくはenocoまでお問い合わせください。)

enocoの学校 ソーシャルデザイン入門コース 第4期受講生募集!



クリエイティブな発想でさまざまな社会課題について真剣に考え、自分の力で楽しみながら解決することのできる人材を育て、支えるプログラム「enocoの学校」。さまざまな問題意識とバックグラウンドを持つ仲間たちとともに、今までにない発想で社会課題解決のプランを企画し、プレゼンテーションし、さらに卒業後には実現していくことを目標としています。

このたび受講生を募集する「ソーシャルデザイン入門コース」では、ソーシャルデザインの事例やトレンドについて知っていただくとともに、アイデアを企画として練り上げ、伝えるためのスキルアップを目指します。半年間、20回のカリキュラム内容として、個性あふれる講師陣が自身のプロジェクトへの思いや経験を伝授するレクチャー・ワークショップ、社会課題解決の現場に実際に赴いてのフィールドワークのほか、チームに分かれての企画立案ワークショップを経て、企画の公開プレゼンテーションを予定しています。

ソーシャルデザインやまちづくり、地域振興や観光など、社会課題の解決にまつわる幅広い分野に興味をもつ皆さんにとって、またとない学びの機会となることでしょう。

ー

開催期間:2016年7月8日(金)~2017年3月4日(土)全20回
募集人数:20名(申込み多数の場合は課題に基づく選考あり)
受講料:30,000円(年間)

講師(敬称略):砂川肇、並河進、忽那裕樹、甲賀雅章ほか

5月中旬に応募開始予定。enocoホームページにてカリキュラム等の詳細を発表します。

エキシビジョンカレンダー 2016年4月 - 6月

月	会期	展覧会名	ルーム
4	5日(火) - 10日(日)	ひろみ展	[ルーム2]
	12日(火) - 17日(日)	世界美術紀行 田淵隆三作品展	[ルーム4]
	19日(火) - 24日(日)	第40回 ぎんなん会美術展	[ルーム1]
	19日(火) - 24日(日)	第87回 浪展	[ルーム4]
	26日(火) - 5/1日(日)	第21回 アートムーブコンクール展	[ルーム1,2,3,4]
5	3日(火) - 8日(日)	NEXTA' 16	[ルーム1,2,3]
	10日(火) - 15日(日)	大阪府友会写真展	[ルーム3]
	17日(火) - 22日(日)	京都造形芸術大学大阪クラブOBG会絵画展	[ルーム1,2,3]
	17日(火) - 22日(日)	第8回 睦美サロン展	[ルーム4]
	24日(火) - 29日(日)	シャドーボックス作品展	[ルーム1,2,3]
	24日(火) - 29日(日)	モザイク・立体・造形・造形「フォルム」第7回展・高槻のぶ子個展	[ルーム4]
	7日(火) - 12日(日)	FOTO写真講座Pコース写真展	[ルーム1]
6	7日(火) - 12日(日)	3人展	[ルーム3]
	7日(火) - 12日(日)	写真集団Foto-15の視点-	[ルーム4]
	14日(火) - 19日(日)	第25回 関西水彩画会会員展	[ルーム1]
	14日(火) - 19日(日)	関西一創会展	[ルーム4]
	21日(火) - 26日(日)	FOUR展	[ルーム1]
	21日(火) - 26日(日)	art風展〜もくもくアトリエ絵画〜	[ルーム2]
	21日(火) - 7/10日(日)	Private Talk展(仮)	[ルーム4]

くわしくはホームページをご覧ください <http://www.enokojima-art.jp/>

PICK UP



イラストレーター7名によるプライベートな展示とトークイベント 「Private Talk (仮)」

会期 | 2016年6月21日(火)〜7月10日(日)

11:00〜19:00(月曜休、最終日のみ11:00〜16:00)

会場 | 1Fルーム4 入場料 | 無料

主催 | DECOBOCO、大阪府立江之子島文化芸術創造センター
(enoco)

関西を拠点に活動するイラストレーター7名による展覧会。各作家が「プライベートなもの」を題材に作品を制作・展示します。会期中には、関西を拠点にイラストレーションの活動を続けている参加メンバーの、「これまで」と「これから」のプライベートな内容も含めたトークイベントも開催します(イベントの詳細は決定次第Webサイトにてお知らせします)。

出展作家(五十音順): タダキヒロ・danny・とんぼせんせい・西武アキラ・makomo・yamyam・Yosuke Yamauchi

展覧会 & イベントレビュー

enoco[study?] #3展覧会

流暢な習慣

(2016年1月10日〜1月30日)

「大阪アートダイバー」

住む(inhabit)と習慣(habit)が同じ言葉をもっているように、住む場所に「習慣」は根づき、人は「習慣」を身にまとい生きていく。人に身に着いた習慣はおいそれと脱ぐわけにもいかず、場所に根づいた習慣を引き抜くわけにもいかない。習慣は、それだけ身体や地層に根ざしたものだ。

展覧会「流暢な習慣」はenoco [study] #3に選出された湯川洋康・中安恵一が「習慣・阻害・彫刻」をテーマに、社会や他者に無自覚に潜在する「習慣」をstudyした成果展示である。「習慣」は一度身につけば、意識されることはない。そこで彼らは、習慣を「阻害」し、収集した物質の断片をブリコラージュした「彫刻」を制作することで、「習慣」を表現した。enoco滞在開始後、2人はアンケートやフィールドワーク、ものの収集を通じて習慣をリサーチし、「リサイクル」、「噂と迷信」、「募金」の3つの習慣を取り上げた。

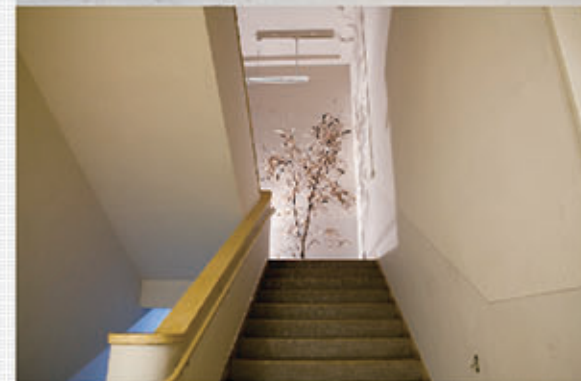
「リサイクル(recycle)」では、釜ヶ崎地区の人々に仕事として「綺麗」なアルミ缶集めの依頼し、集まった素材でモザイク壁画を制作した。「噂と迷信」は、「鳥の羽根は菌を持っているので拾ってはいけない」、「免疫をつけるために、子どもを3歳までに動物園へ連れて行く」という噂と迷信にもとづき、動物園で拾い集めた鳥の羽根とオリーブの木によって彫刻化した。「募金」は、赤い羽根共同募金をenocoに設置し、募金期間終了後に手元に残った羽根を素材に作品を制作した。

ここで彼らが試みた習慣への「阻害」は、「リサイクル」では非効率でもある「綺麗」なアルミ缶集めの依頼、「噂と迷信」では羽根(菌)を拾い、除菌、無菌化することで免疫力を無効化し、「募金」では社会奉仕から自分奉仕へ、赤い羽根を象徴から物質に戻すことで、それぞれの習慣を喪失、解体する鮮やかな脱・習慣であった。

そして、「習慣」に対してもっとも大きな「阻害」とは実は「アート」なのかもしれない。なぜなら「芸術」は無自覚や流暢さに無縁な「習慣」だからだ。彼らは「アート」には習慣化されていないからこそ現われる世界の豊穡さがあることを、studyを通じて明らかにしたのである。それはまた、彼らがあたかもダイビングするように飛び込んだ大阪という地域・地層に潜在する豊穡さでもあっただろう。

平田剛志

ひらた・たけし。京都国立近代美術館研究補佐員、つくるビルアドバイザー。1979年東京生まれ。2004年多摩美術大学美術学部芸術学科卒業。2014年立命館大学大学院先端総合学術研究科修了。専門は近現代美術史、視覚文化論、吉田初三郎の鳥獣図。アートウェブマガジン「カロンズネット」の編集・ライターを経て2012年より現職。関西を拠点に、美術批評、キュレーションなど幅広く活動を行なっている。



展示風景(©湯川洋康・中安恵一)



ギャラリートークの様子(左から:湯川洋康、中安恵一)



これまでのイベント

enoco×KIITO×BRITISH COUNCILスペシャルセッション 「課題解決に向けたアートとデザインの役割と可能性」

クリエイティブフォーラム「アートとデザインプロジェクトの未来形」(2016年1月22日) @enoco
連続ワークショップ「社会変革を起こすプロジェクトデザイン」(2016年1月23日,24日) @KIITO

大阪のenocoと神戸のKIITO(デザイン・クリエイティブセンター神戸)、初の共同プログラムとして、事業業績・プロジェクト評価の専門家、ジェーン・マッシー氏をイギリスからお招きし、プロジェクトプランニングのノウハウと、それに伴う評価や検証方法について、海外の事例を参照しながら学ぶフォーラムとワークショップを開催しました。全国から、さまざまな形で文化事業に携わる方々にご参加いただきましたが、参加者の興味関心は実に多種多様。実際に自分が関わるプロジェクトに当てはめながら考えてみるとたくさんの発見があり、これまでの考え方のクセを取り払い、まず思考の柔軟性を鍛える必要性や、そもそもの理解の不十分さを実感しました。フォーラム、ワークショップそれぞれの参加者の皆さん向けに内容を改めて共有するとともに、今後、実際の活動の中での活かし方や、そこで出てくる疑問などをフォローする機会を設けたいと思います。

松本拓/enoco企画部門



ちっちゃい火を囲む(通称:ちび火)@えのこdeマルシェ

(2015年1月30日)

enocoの恒例イベント・えのこdeマルシェにて、「ちっちゃい火を囲む(通称ちび火)」プロジェクトを開催しました。ちび火とは、公共空間で焚き火を行うことで醸し出される柔らかな場を通じてコミュニティの活性化を試みるという、2008年に大阪大学で始まった活動です。今回はプロジェクトメンバーで美術家の小山田徹さん(写真上段、左から2人目)と有志メンバーにご協力をいただいたの開催となりました。小山田さんから、火の起こし方や維持のコツなど、火の扱いかた全般についてをレクチャーしていただいた後、サポーターが中心となってちび火のお世話を続けます。最初は遠巻きに様子を見ていた来場者のみなさんでしたが、真冬の開催ということもあり、いつの間にか自然と暖をとりにちび火の近くへ集まります。次第にそれぞれマルシェで買ったパンや野菜などを炙って食べたり、隣りに座っている人におすそ分けをしながらのおしゃべりを始めたりと、会場は思い思いの和やかなコミュニケーションが生まれる空間となっていました。

吉原和音/enoco企画部門



enoco×タチヨナ企画 オヤトコエノコ わが家の「…」を作ろう!

(2016年3月27日)



オヤトコエノコは2014年度からスタートした、親と子が互いに関わりながら作品を作り上げていくアートワークショッププログラムです。2015年度は日常生活の中で、周りにあふれている「音」と「動き」を中心に、初級編・中級編・上級編と、3つのプログラムを実施しました。

『わが家の「…」を作ろう!』上級編では、音楽ユニットSjQを講師に招き、彼らが活動の中で実践している「メタ・クリエイション」のエッセンスを、ライトレーサー(黒いラインに沿って動く模型自動車)を使ってゲーム感覚で楽しみながら体験するワークショップを行いました。

まずはSjQの簡単な活動紹介からスタート。参加者がいつも耳にしている音楽と、彼らが生み出す「音楽」との違いや、完成された作品そのものよりも音楽を生み出すためのプロセスを思考することに重点を置いていることを伝えていきます。

ワークショップでは、まず用意された楽器や日用品、おもちゃなどから2点好きなものを選び、その「モノ」をどう扱ったらどんな音が出るのか、その可能性を探ります。

ライトレーサーのコース設計は子供たちが主となって行いました。番号や記号の書かれた旗に、その旗が倒れた時に「何を」「どうするのか」決め、動線と旗の並びを決め、そのコース設計が楽譜となります。演奏の指揮はライトレーサー。ゆっくりと、黒いラインを確認しながらなぞるように動いて旗を倒していき、大人たちは旗が倒れたタイミングで決められた指示通り音を出していきます。まるで無関係な単音、単音が、ライトレーサーの動きによって繋がり、音楽を奏でます。ワークショップの最後には、会場全体を使ってコースを作り、参加者とスタッフ全員でおよそ9分にも及ぶ大作を演奏しました。

初級編、中級編、上級編の3回にわたる「わが家」シリーズでは、日常生活にあるものを使用すること、そしてその体験とメソッドを親子で共有し、ワークショップ後も親子間での共通言語として表現活動が続くことを考え構成しています。また、ワークショップという非日常の中で第三者が介入しフォローアップすることで、親と子が客観的に関係性を見直すきっかけともなることも期待しています。

enoco×タチヨナ企画の教育支援プログラムは、2016年度も実施を予定しています。どうぞお楽しみに。

enoco企画部門/高橋真理子



先日ある芸術祭でボランティア活動してきました。仕事でもプライベートでもない場で初めて会う人と東の関一つのことに取り組みながら意外と楽しい。企画する側にも見えなくなりながら参加者の視点も大切！「ひっそりと「突撃」となるプロジェクト」の活動始めるかもしれません。[プログラムディレクター 高橋玲子]



最近、「お茶」がマイブーム！美術館や展覧会に合わせて作られたオリジナルティーをいろいろ試してみたい。そんな中、私の一押しは豊島美術館の「瀬戸内レモンティー」。レモングラスやレモンピールのさわやかな香りが素敵な紅茶です。いつかenocoでもオリジナルティーが作れたらなあ。[アートコーディネーター 高橋真理子]



私事ですが、この春をもってenocoを退職し、なんとアメリカに引っ越すことになりました。優しく心が広い上司と同僚、才能あるアーティスト、デザイナーのみなさんをはじめ、大阪で出会った魅力あふれる人々との別れは辛いですが、人間関係と場所を背負い、とりあえず引っ越し準備がんばります。[アートコーディネーター 高橋真理子]

enocoに関わる創造人たちによるコラム。

2021年度に開館を予定している大阪新美術館。建設準備室学芸員の清原さん、お願いします。

enocoとの共催事業「市民キュレーターワークショップ」に、主催・大阪市のスタッフとして携わってきた。学芸員とは全く立場の違う一般の人々に、大阪府20世紀美術コレクションによる展覧会をつくってもらうこの試みで、とくに興味深いのが、同じ作家・作品を扱っても企画者によって全く異なるストーリーが生まれ、作品もそのたび異なる魅力を放つということ。美術史に基づき展示を企画するのが常である学芸員の眼とかなり違って新鮮である。

芸術作品はそれ自体の価値もさることながら、どんな文脈で見せるか、何と一緒に見せるか、どんな順番で見せるかなど、見せ方の如何によってその魅力は何倍にも膨らむもの。それは仕事の場面だけでなく、趣味の音楽においても実感している。私は大の音楽愛好家で、ジャズバンドでの演奏

など、時々ステージにも立つ。個々の楽曲を仕上げて披露することもさることながら、とくに情熱を注ぐのが、選曲や曲順に工夫を凝らすことである。真面目な曲とコミカルな曲をどう配分するか、あるいは意外な曲同士をメドレーにしたりと、いかに聴く人の度胆を抜こうか考えるのが大好き。ずばりこれは展覧会づくりにも似ているのでは、とも思っている。

2021年度の美術館開館を目指して準備を進める私たち大阪新美術館建設準備室では、美術作品をすでに約4900点所蔵し、具体美術協会関係をはじめ資料類も充実させている。これら所蔵品の質とボリュームを活かしつつ、見せ方にも様々な工夫を凝らして、同じ作品でも見るたびに新しい魅力に出会える美術館をつくりたい。

清原 佐知子

きよはら・さちこ

大阪新美術館建設準備室学芸員。「絵画の冒険〜今井兼光と戦後美術の歩み」(2003年)、大阪府との共同企画展「生誕100年記念 前田廉四郎展」に「版」に刻まれた昭和モダニズム(2006年)などの展覧会を担当。

「最近のデザインは、面白くない!」

旅というのは思いがけないプレゼントがあるから止められない。

香川県・高松で、ある男と、25年ぶりに再会した。彼が経営しているのは、桜製作所。建築やプロダクト系デザイナーなら、この名前にピンとくるだろう。そう、ジョージ・ナカシマの家具を作ること唯一許された家具屋である。そこに並ぶ木製の椅子、机の数々は、量産では決して出せない、まさにアートと匠が出会った圧倒的存在感がある。アメリカの木材商の中では「くす屋」と呼ばれていたナカシマは、節もなく木目の美しい材には目もくれなかったそう。木の精霊の声を聞き、使う場所を決めていく。そんな話も、作品を見ていると本当に聞こえてくる。「そうだ、今日は減多に見られない流政さんのアトリエに行く日だった。一緒に行く?」「あの彫刻家の?」瀬戸内を見下ろす高台に立つ、ま

るでミュージアムのような建物。鉄の扉を開け、車で乗り入れていく。ナント、迎えてくれたのは、流さんご自身だった。素晴らしいロケーションの中に、数え切れないほどの作品が、ある意味、無造作に置かれている。

「一流の芸術家というのは、質の高さは勿論大事だが、数を作れることも大切なんだ。新作が出来ると、先ずここに置いてみる。瀬戸内の自然の風景の美しさと強さに負けていないか確かめるんだ。」失礼だが、実に屈託のない笑顔で、流さんはそう語った。

帰りの車中。「最近のデザインって面白くないよね。家

具だけでなく。」「そうだね、デザイナーの責任もあるだろうが、社会が問題だね。つまり、僕たちが。」お二人の木と石という自然に真っ正面から向かい合った作品を見て、モノとヒトの関係性を改めて考えさせられた。



大阪府20世紀美術コレクション

1987年から2007年にかけて大阪府が収集した「大阪府20世紀美術コレクション」。総数およそ7800点の中から、enocoスタッフのおすすめ作品を毎号1点ずつご紹介いたします。



「May Dream[5月の夢]」

金光松美(1922-1992)

1969年〜1970年 | 油彩・キャンバス | 165cm×165cm

画面からもタイトルからも、春から初夏にかけての空気が伝わってくるような作品、「5月の夢」。アメリカ生まれ、日本育ちの日系人画家・金光松美が、40代半ばにロサンゼルスで制作した作品です。

ユタ州に生まれ、広島で育った金光は、青年期にアメリカに戻り米軍陸軍に従軍したのち、戦後のニューヨークで美術を学び、抽象表現主義の第2世代として作品を手がけるようになります。国吉康雄、ジャクソン・ポロック、ウィレム・デクーニング、ロバート・ラウシェンバークら華々しい面々と交流を深めたことでも知られ、その境界では「マイク・カネミツ」と呼ばれ親しまれていたようです。気象や太平洋をモチーフとした色鮮やかな作品で日系アメリカ人として成功を収める一方、墨絵を思わせる「日本的」な作品も多く制作しており、アメリカと日本、ふたつのアイデンティティの間で揺れ動いた金光の心情が作品に表れているようにも感じられます。

常々、アーティストの生い立ちや人間関係が制作に影響を及ぼすさまを興味深く観察しているのですが、そういった意味でも金光の作品は、コレクションの中でも最も興味深いもののひとつです。

峯 恵子

enoco企画部門



オン★ザ★レビュー

enoco地下1階の古書店、オン・ザ・ブックス 米田店長によるブックレビュー。アートブック・写真集・デザイン・建築・ファッションからマンガ・音楽・映画・オカルトまで、多彩なラインナップの中から、今の気分をあらわす1冊をご紹介します。



「スノウホワイト／諸星大二郎」

マンガです。諸星大二郎の作品はどれも大好きなので、本当は全ての作品をおすすめしたいところなのですが、たまたま店にあったこちらから。グリム童話を題材にした、[七匹の子やぎ] [スノウホワイト] [ラプンツェル] [薬と炭とそら豆] など、12の短編を収録しています。どれもこれも奇妙で不条理な物語。ちょっと前に流行った「本当は怖いグリム童話」の類とは違う面白さで、残酷さとか恐怖はありません。独特なタッチの絵にはまってしまえば、いつの間にか本棚は諸星大二郎で埋め尽くされていることでしょう。1970年代にデビューしているのにタイトル数はそれなりにあります。まだ未読の方は、まずは短編集からは是非どうぞ。諸星ワールドがぎゅぎゅっと凝縮されていますよ。

ON THE BOOKS

営業時間: 11:00-20:00(月曜日定休)
掲載の書籍は店頭・オンラインストアで販売中 www.on-the-books.info

米田 雅明

オン・ザ・ブックス店長





前号でお伝えした新しい施設「フラッグスタジオ」での初のイベント、映画「ソウル・フラワー・トレイン」上映会を3/24に開催しました。多くのお客様にお越しいただき、涙あり笑いありのポップな人情喜劇映画を楽しんでいただきました。上映後は監督の西尾さんと懇談会、制作スタッフや映画の話を大いに盛り上げました。いや〜映画ってホントにいいですね。
[DECOCOCO スタッフ 小池一馬]

「えのこじま文化祭」開催します！

タワーマンション「阿波座ライズタワーズ フラッグ46」ならびに、同マンション内スタジオ「フラッグスタジオ」がこの春に竣工し、「江之子島地区まちづくり事業」南地区の施設がすべてオープン。これを記念して、江之子島アート&ライフ事業を行うDECOCOCOとenocoが共催で、江之子島2丁目一帯をつかったイベント「えのこじま文化祭」を開催します。

enocoでは「古本と園芸」をテーマにしたマルシェを、マークスタジオではヨガ・太極拳・卓球の無料体験講座(出入り自由!)、そして新しくオープンするフラッグスタジオでは、Gaagaasや激団モンゴイカバンドらによるライブを開催します。

当日は、江之子島2丁目だけで聴けるミニFM「えのこじま凸凹ラジオ」もオンエア。DJの毛原大樹さんと岩淵拓郎さんが、祭をさらに盛り上げます。くわしくはウェブサイトとチラシをチェック！

「えのこじま文化祭2016」

日 時: 5月14日(土) 11時~17時

場 所: 西区江之子島2丁目地域一帯(FLAGスタジオ、MARKスタジオ、enoco、および公開空地)

料 金: 参加無料

ラジオを一緒につくる
特派員を募集します！



「えのこじま凸凹ラジオ」アドバイザーの毛原大樹さん

あたらしい造形ワークショップ、始まります！

親子や夫婦、カップル、兄弟姉妹、友人同士など、2人1組でチームになって協力しあったり、会話しながら作る、ちょっと変わった造形ワークショップをマークスタジオにて開催します。

5月15日開催の第1回目のテーマは「目を閉じて描いてみよう」。目隠しした状態で、手でモチーフを触りながら形を確認しながら絵を描くことに挑戦。はじめは身近なじゃがいもやトマトを描き、最後にはお互いの似顔絵を描いてみます。手で触った時の感覚だけをたよりに描かれた似顔絵は、どんなものになるでしょう。

2回目のテーマは「のびる植物絵」。新緑の季節にふさわしく、植物がモチーフです。相手が描いた絵の端っこ(途切れた部分)から、相手がどんな植物を描いたのかイメージを膨らませ、紙を繋ぎ、絵を描き足していきます。しりとりのように何度か繋がれ描かれた植物がどんな表情をみせてくれるのか楽しみです。

「ふたりで参加できる日曜ワークショップ」

日 時: 第1回:5月15日(日)、第2回:22日(日) 10時~12時

料 金: 1組(2名)3000円 ※1人でご参加の場合は1500円
材料などはこちらで準備します。手ぶらで気軽にご参加ください。

詳細・お申し込みはDECOCOCOウェブサイトをご覧ください。



ワークショップ成果物の例

【講師】 彦坂敏昭(ひこさかとしあき) 1983年愛知生まれ。画家。大原美術館や資生堂ギャラリーなどで個展を開催。東京都現代美術館、兵庫県立美術館などの企画展に参加。京都造形芸術大学、倉敷科学芸術大学にて非常勤講師。

クラウン(道化師)の祭典が江之子島に！

国内・海外のプロのクラウン(道化師)にコミュニケーション方法や表現方法を学んで自分の仕事や日常に活かしてみませんか?『ワールド・クラウン・フェスティバル』とは、世界的に活躍するプロの道化師から様々なことを学んだり、見たり、体験できるフェスティバルです。初心者対象の内容で、クラウンとして活動したい方、特技が欲しい、うまく表現できないコミュニケーション能力を養いたい、人前に立つのが苦手、楽しいことが大好き!そんなあなたにおすすめの授業です。是非この機会にクラウンの世界を体験しましょう。

「ワールド・クラウン・フェスティバル・イン・ジャパン2016」

日 時: 2016年6月4日(土)10:00~20:00

6月5日(日)10:00~16:30

※6/3(金)の夜には前夜祭として講師のショーを観覧できます。

場 所: フラッグスタジオ、enoco

参 加: 18歳以上・定員70名

受講料: 46000円(3日分) ※4/30までの早期割引42000円

お申し込み、お問い合わせはプレジャー企画まで

www.pleasure-p.co.jp/

未経験者対象の授業で
安心して参加できます！



イベントスケジュール

- | | | |
|----|------|---|
| 4月 | 23日 | ALIMO映像作品上映会&トーク
「イリュミナシオンとナラトロジー」
ゲスト: ALIMO(美術作家) |
| | 28日 | DECOCOCOギャザリング#4
「ジョセフ・ヒコと彦坂とアイランド」
ゲスト: 彦坂敏昭(画家) |
| 5月 | 14日 | えのこじま文化祭 |
| | 15日 | 「ふたりで参加できる日曜ワークショップ」
講師: 彦坂敏昭(画家) |
| | 19日 | 映画「チャンドマニ」上映会&トーク
ゲスト: 亀井岳(映画監督) |
| | 22日 | 「ふたりで参加できる日曜ワークショップ」
講師: 彦坂敏昭(画家) |
| | 最終週 | クリエイター・イン・レジデンス:
Studio Spass(オランダ)
オランダのデザインスタジオ「Studio Spass」が大阪に滞在し、FLAGスタジオに作品をインストール!見学自由です。 |
| 6月 | 4-5日 | 「ワールドクラウンフェス」 |
| | 21日 | 展覧会「personal drawing」 |
| | 26日 | サロン文化大学シアター/
韓国映画「パーティー51」上映会
ゲスト: 山本佳奈子(Offshore)
渡邊太(社会学者) |

その他、卓球教室やヨガ教室なども定期的に開催中。
くわしくはFacebookページ、もしくは4月公開予定の
www.enokojima.infoサイトをご確認ください。



島子之江

院病生日

FLAG
スタジオ

オジタスクーマ

駅座波阿

enoco